

第114期
報告書

株主のみなさまへ

2017 / 6 / Vol.53



DOWA

証券コード:5714

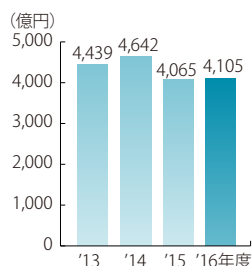
連結決算ハイライト

	2013年度 (2014年3月期)	2014年度 (2015年3月期)	2015年度 (2016年3月期)	2016年度 (2017年3月期)
売上高 (億円)	4,439	4,642	4,065	4,105
営業利益 (億円)	317	390	350	339
経常利益 (億円)	350	420	350	365
親会社株主に帰属する 当期純利益 (億円)	233	265	218	261
総資産 (億円)	3,587	3,791	3,644	4,046
純資産 (億円)	1,669	1,956	2,033	2,278
1株当たり当期純利益 (円)	78.77	89.69	73.75	88.43
1株当たり配当金 (円)	15	18	18	18
1株当たり純資産 (円)	534.75	632.30	658.66	741.06
総資産経常利益率(ROA) (%)	9.9	11.4	9.4	9.5
自己資本当期純利益率(ROE) (%)	16.0	15.4	11.4	12.6
設備投資額 (億円)	165	172	229	265
減価償却費 (億円)	162	155	151	157
有利子負債 (億円)	996	866	811	798

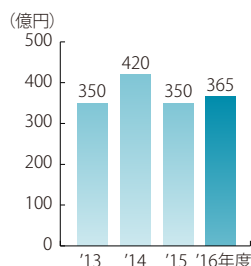
※ROAは経常利益を期中平均総資産で割って計算しております。

※ROEは親会社株主に帰属する当期純利益を期中平均自己資本で割って計算しております。

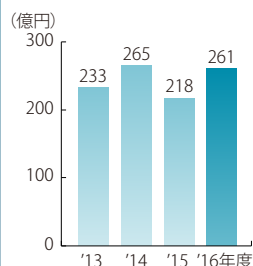
売上高の推移



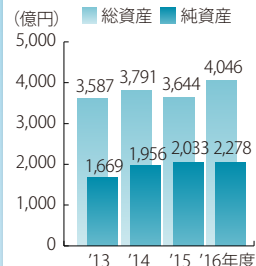
経常利益の推移



親会社株主に帰属する 当期純利益の推移



総資産および 純資産の推移





2016年度 (2017年3月期) 経営成績と 今後の取り組み

代表取締役社長
山田 政雄

2016年度の経営成績

株主の皆様には、平素より格別の高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、2016年度(2017年3月期)における当社グループの事業の状況と経営成績をご報告申し上げます。

当連結会計年度におけるわが国の経済は、緩やかな回復基調にありました。世界経済についても緩やかな成長が継続しましたが、英国のEU離脱問題をはじめとする欧州の政治情勢や米国新政権の政策の不確実性により、不透明な状況が続きました。

当社グループの事業環境については、自動車関連製品の需要は、国内・海外とも比較的堅調に推移しました。電子部品や新エネルギー関連の製品は、東アジアを中心に需要が伸長しました。相場環境については、貴金属や亜鉛などの金属価格が上昇し、為替相場は第2四半期までは円高基調で推移し、その後円安が進行しました。

当社グループは、特色ある5つの事業部門それぞれの領域において事業拡大を進めており、その総合力に

より個別の事業環境の変化に強い、堅固な収益基盤を構築しています。加えて、為替相場や金属価格の変動にともなう損失発生リスクを低減することにより、収益の安定化を図っています。中期計画の2年目にあたる当期は、その基本方針である「成長の継続」に向けた各施策を着実に実施してきました。

これらの結果、当期の売上高は前期比39億円増の4,105億円となり、営業利益は同10億円減の339億円、経常利益は同14億円増の365億円、親会社株主に帰属する当期純利益は同43億円増の261億円となりました。

なお、当社は、株主の皆様への配当を経営における最重要課題の一つと位置付けており、企業体質強化と将来の事業展開に備えた内部留保の充実を勘案のうえ、業績に応じた配当を行う方針としています。当期の配当金については、当期の業績、今後の事業展開、財務体質の強化などを総合的に勘案し、前期と同額の1株当たり18円といたします。

今後の取り組み

2017年度は3年間の中期計画の最終年度にあたります。

市場動向を見極めながら、各部門においては下表にあげる施策を着実に実行していきます。

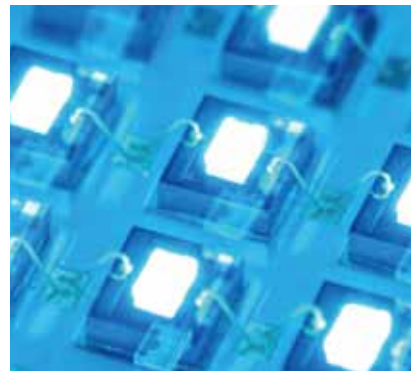
環境・リサイクル部門	<ul style="list-style-type: none"> ・インドネシアやタイでの最終処分場の新設・拡張に向けた環境アセスメント調査の推進 ・低濃度PCB廃棄物の処理推進に向けた大型廃電気機器の事前解体能力拡大 ・メルテックいわき(株)の操業開始による一般廃棄物の溶融・再資源化拡大 ・シンガポールの新焼却炉、操業開始 ・新たな土壌浄化工法による自然由来汚染土壌処理の事業化推進
製錬部門	<ul style="list-style-type: none"> ・(株)日本ピージーエムでの設備増強・増処理、海外からの原料集荷拡大による白金族リサイクル事業の拡大 ・秋田製錬(株)で焙焼炉の新設・更新、小坂製錬(株)で副産金属のスズやアンチモンを増産 ・メキシコでロス・ガトス銀・亜鉛・鉛鉱山開発に着手、米アラスカ州のバルマー亜鉛・銅プロジェクトは探鉱活動継続
電子材料部門	<ul style="list-style-type: none"> ・スマートフォン用各種センサー向け新規製品の開発・拡販 ・需要拡大が続く新エネルギー向け銀粉の設備増強・増産 ・アーカイブ用データテープ向け磁性粉の特性向上と拡販 ・深紫外LEDの事業化に向けたサンプルワークを拡大
金属加工部門	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車やスマートフォン向けに耐熱性や導電性、強度などの特性を高めた銅合金を開発・拡販 ・日本やタイでのめっき品増産、メキシコでのめっき工場立ち上げ ・パワー半導体向け金属-セラミックス基板の新規製品増産に向けた設備増強
熱処理部門	<ul style="list-style-type: none"> ・国内やインド、北米での熱処理炉拡販、海外のメンテナンス事業強化 ・インドで熱処理加工の新工場を立ち上げ、現地顧客から受注拡大 ・国内で熱処理加工工場の生産能力を増強



ロス・ガトス銀・亜鉛・鉛プロジェクトの現場



シンガポールの新焼却炉



深紫外LED

2017年度(2018年3月期)の見通し

世界経済は緩やかな成長が継続していますが、欧州の政治情勢や米国新政権の政策の不確実性などにより、依然として先行きは不透明な状況が続いています。

こうした不透明な事業環境や成長投資による先行費用の増加も織り込み、2017年度については、売上高4,340億円、営業利益340億円、経常利益365億円、親会社株主に帰属する当期純利益260億円を計画しています。

今後も、市場の動向を見極めながら各施策を着実に実行し、成長を続けていきます。

株主の皆様におかれましては、なお一層のご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

2017年度計画

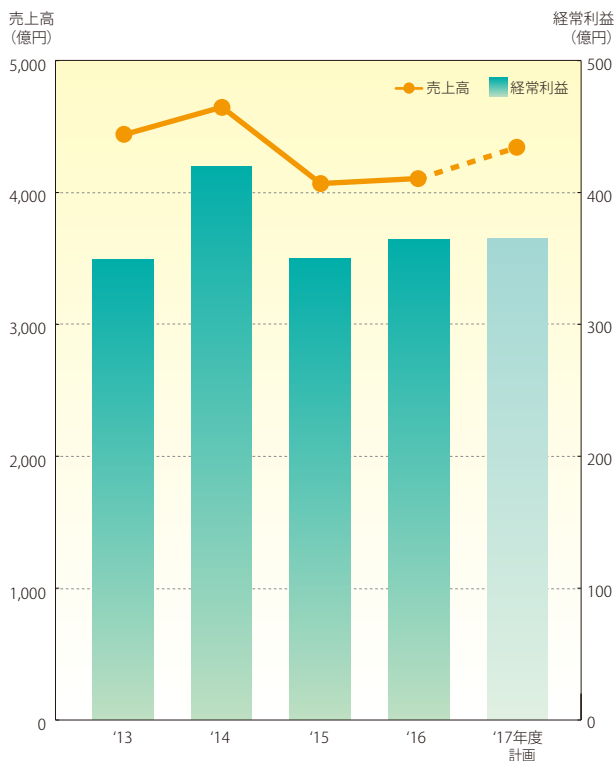
(単位:億円)

	2016年度実績	2017年度計画	増減
売上高	4,105	4,340	234
営業利益	339	340	0
経常利益	365	365	△0
親会社株主に帰属する当期純利益	261	260	△1

相場前提

	2016年度		2017年度
	上期実績	通期実績	通期前提
為替 (¥/\$)	105.3	108.4	115.0
銅 (\$/t)	4,752	5,154	5,500
亜鉛 (\$/t)	2,084	2,367	2,700
インジウム (\$/kg)	222	207	190

これまでの業績推移と2017年度の計画



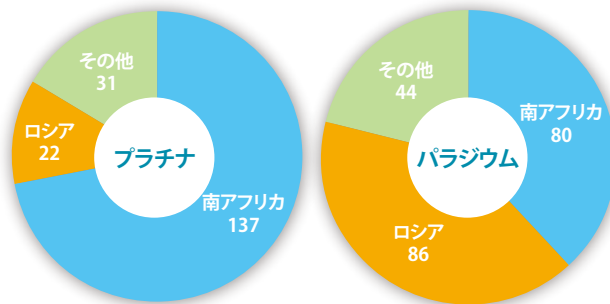
白金族リサイクル事業の拡大

DOWAでは、自動車に搭載されている排ガス浄化触媒から、プラチナ・パラジウム・ロジウムといった白金族（Platinum Group Metals）元素をリサイクルしています。

自動車の排気ガスには窒素酸化物（NOx）など、有害な物質が含まれています。これを無害化するのが排ガス浄化触媒です。排ガス規制が厳しくなり、いまでは世界中の新車に触媒が搭載されるようになりました。

しかし、触媒として使うPGMは産出量が非常に少なく、産出地も南アフリカやロシアなどに偏在しています。安定供給にリスクがあるため、リサイクルが必要とされています。

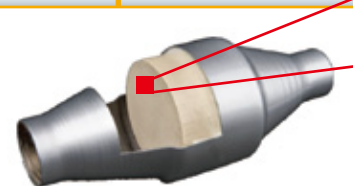
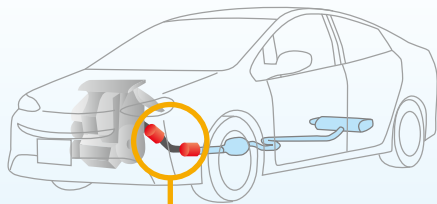
2016年PGM供給内訳 (t)



出展: Johnson Matthey

- 供給は南アフリカ、ロシアなどに偏在
- リサイクルからの供給比率は徐々に拡大し、現在は約30%

自動車排ガス浄化触媒とは



自動車に搭載されている排ガス装置

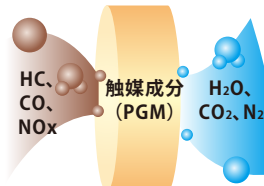


ガス
流路

セラミック担体 触媒成分 (PGM)

セラミック担体内部にPGMがコーティングされている

有害ガス 無害ガス

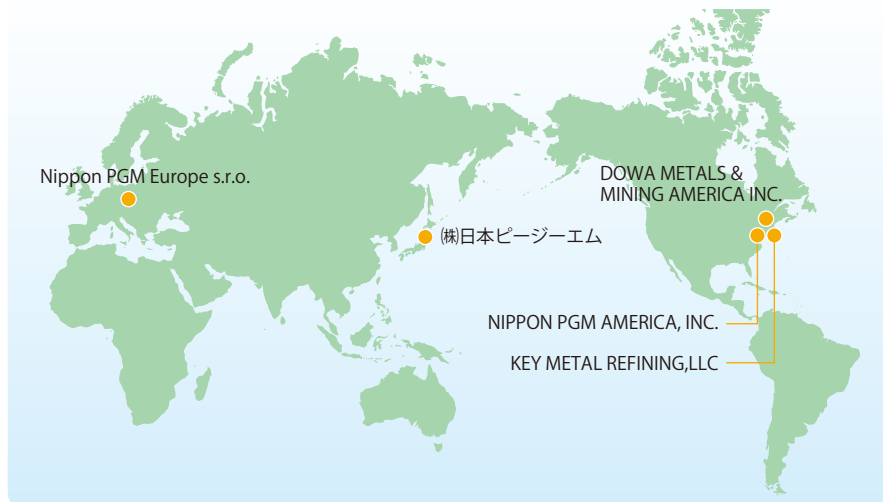


排ガスを無害化

DOWAは、1991年に㈱日本ピージーエムを設立し、PGMのリサイクル事業を開始しました。同社の特長は、独自開発のROSEプロセスにより高効率かつ短いリードタイムで原料からPGMをリサイクルして回収できることです。

原料となる排ガス浄化触媒は、排ガス規制の強化が進むなかで、世界的に使用量が増加し続けています。DOWAは、日本国内はもちろん、米国や欧州、最近ではアジア各国など、世界中から原料を集荷しています。市場の拡大に合わせて、2003年にアメリカ、2010年にチェコにそれぞれ原料の集荷拠点を設立し、昨年度はアメリカの集荷会社を買収するなど、独自のネットワークを構築しています。一方で、国内工場においても炉の更新や新設など処理能力の増強を進めており、今夏には2ライン体制ができあがります。

これからも、国内外の営業・集荷拠点でのきめ細かいサービスと信頼できるサンプリング・分析技術、ROSEプロセスの総合力で事業拡大を続け、貴重なPGM資源の有効利用に貢献していきます。



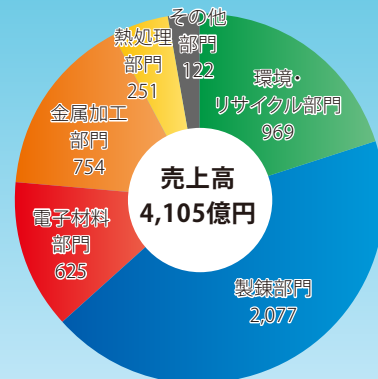
使用済み排ガス浄化触媒



PGMリサイクル工場

部門別の 営業状況

部門別売上高構成 (2016年度)



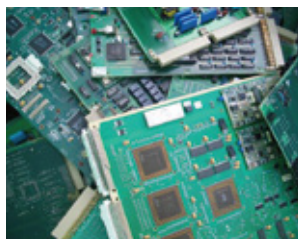
※各部門の売上高には、連結調整による消去分696億円を含んでおります。

凡例 — 通期売上高 (赤線) 通期営業利益 (青線)

環境・リサイクル部門

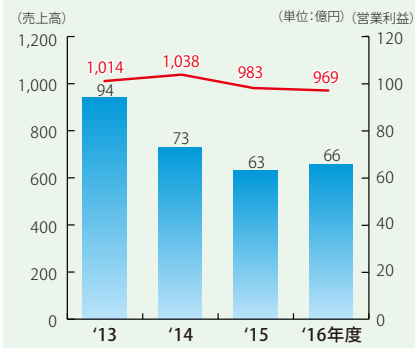
廃棄物処理は、国内の産業廃棄物発生量が横這いの中、廃棄物の処理単価が一部で低下した影響を受けました。土壌浄化は、既存の浄化法に加え、自然由来汚染土壌に対応した浄化法による受注が増加しました。リサイクルは、電子部品スクラップの国内外での集荷拡大に努めました。東南アジア事業では、インドネシアやタイにおいて、石油・天然ガス開発に関連する廃棄物処理の受注は回復に至らないものの、その他の産業廃棄物処理の受注は堅調に増加しました。

これらの結果、当部門の売上高は前期比1%減の969億円、営業利益は同5%増の66億円となりました。



電子スクラップ

部門別連結売上高・営業利益の推移



製錬部門

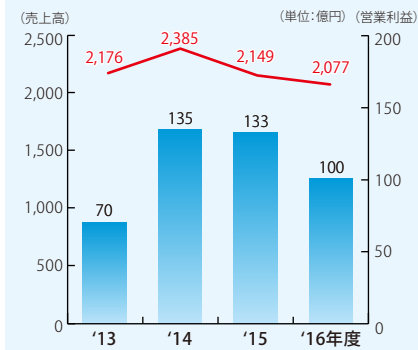
金属価格については、金や銀、亜鉛は上昇し、銅についても第3四半期以降は上昇に転じました。インジウムは前年に引き続いて下落しました。為替相場は、第3四半期以降、米国大統領選後に円安が進行したものの、前年同期に比べ約12円の円高水準となりました。このような状況の中、各製錬所は一部老朽化した設備の更新や新設を行いました。また、海外での探鉱活動を継続するなど事業基盤の強化を進めました。コスト面では電力原単位や物品費の削減を進めるとともに、原油価格下落による電力価格引き下げの影響がありました。

これらの結果、当部門の売上高は前期比3%減の2077億円、円高の影響を受けたことなどにより、営業利益は同25%減の100億円となりました。



亜鉛

部門別連結売上高・営業利益の推移



電子材料部門

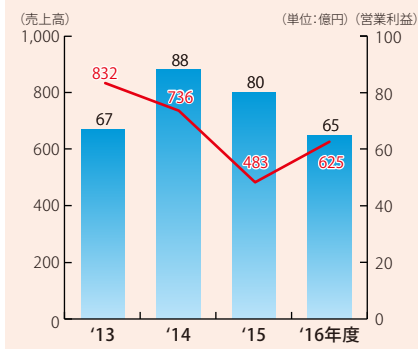
半導体材料製品は、スマートフォン向けの需要が低調に推移したため、販売量が減少しました。導電材料製品は、新エネルギー向け銀粉の需要が増加し販売を伸ばしました。機能材料製品は、アーカイブ用データテープ向け磁性材料の拡販に取り組みました。また、市場ニーズに応える新規製品開発を進めました。

これらの結果、当部門の売上高は前期比29%増の625億円となりましたが、輸出製品が円高の影響を受けたことなどにより、営業利益は同18%減の65億円となりました。



銀粉

部門別連結売上高・営業利益の推移



金属加工部門

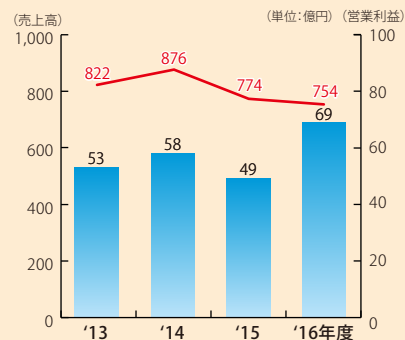
端子やコネクタに使われる伸銅品は、自動車向けでは海外を中心に自動車生産台数が増加するなか、販売を堅調に伸ばしました。スマートフォン向けでは、東アジアを中心に高強度品を拡販しました。貴金属めっき加工は、自動車の電装化需要を取り込み、堅調に推移しました。金属-セラミックス基板は、鉄道向けの需要は弱含みであったものの、産業機械向けでは緩やかな回復が見られました。

これらの結果、当部門の売上高は円高の影響により前期比2%減の754億円となりましたが、営業利益は同42%増の69億円となりました。



伸銅品

部門別連結売上高・営業利益の推移



熱処理部門

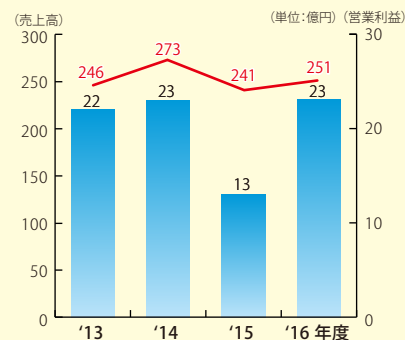
熱処理加工は、自動車産業の成長が続く海外地域での事業拡大を推進する中、インドやタイ、中国において受注拡大を図りました。また、国内では堅調な受注に加えて原油価格下落による燃料コスト低減も収益に寄与しました。工業炉は、海外向けの設備拡販やメンテナンス受注の拡大に努めました。

これらの結果、当部門の売上高は前期比4%増の251億円、営業利益は同76%増の23億円となりました。



熱処理加工品

部門別連結売上高・営業利益の推移



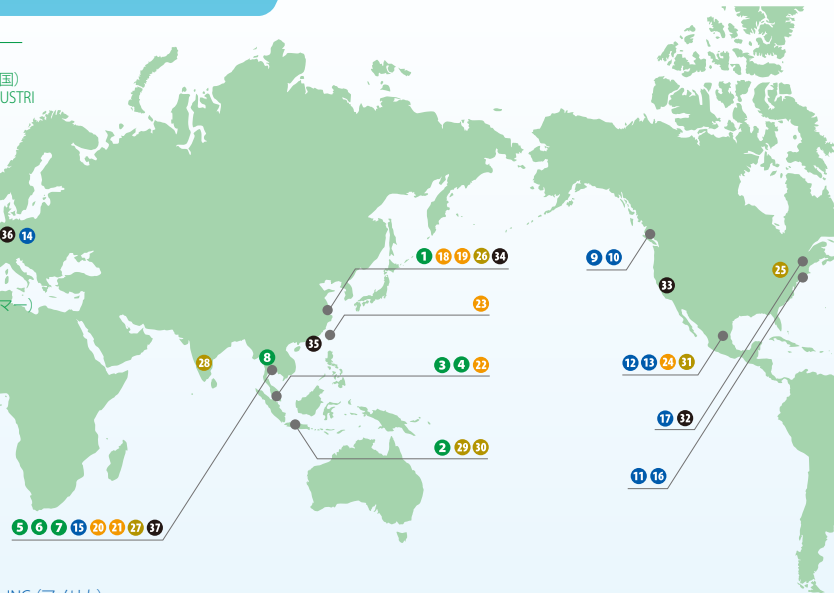
地図で見るDOWAグループ

DOWAエコシステム(株)

- 1 蘇州同和資源综合利用有限公司(中国)
- 2 PT. PRASADHA PAMUNAH LIMBAH INDUSTRI (インドネシア)
- 3 TECHNOCHEM ENVIRONMENTAL COMPLEX PTE. LTD. (シンガポール)
- 4 DOWA ECO-SYSTEM SINGAPORE PTE. LTD. (シンガポール)
- 5 WASTE MANAGEMENT SIAM LTD. (タイ)
- 6 BANGPOO ENVIRONMENTAL COMPLEX LTD. (タイ)
- 7 EASTERN SEABOARD ENVIRONMENTAL COMPLEX CO., LTD. (タイ)
- 8 GOLDEN DOWA ECO-SYSTEM MYANMAR COMPANY LIMITED (ミャンマー)

DOWAメタルマイン(株)

- 9 バンクーバー事務所(カナダ)
- 10 CARIBOO COPPER CORPORATION (カナダ)
- 11 NIPPON PGM AMERICA, INC. (アメリカ)
- 12 メキシコ事務所
- 13 MINERA TIZAPA, S.A. DE C.V. (メキシコ)
- 14 Nippon PGM Europe s.r.o. (チェコ)
- 15 DOWA METALS & MINING (THAILAND) CO., LTD. (タイ)
- 16 KEY METAL REFINING, LLC (アメリカ)
- 17 DOWA METALS & MINING AMERICA INC. (アメリカ)



DOWAメタルテック(株)

- 18 同和金属材料(上海)有限公司(中国)
- 19 同和新材料(上海)有限公司(中国)
- 20 DOWA METALTECH (THAILAND) CO., LTD. (タイ)
- 21 Dowa Precision (Thailand) Co., Ltd. (タイ)
- 22 シンガポール支店
- 23 同和利精密部品股份有限公司(台湾)
- 24 DOWA METALTECH MEXICO, S.A. DE C.V. (メキシコ)

DOWAサーモテック(株)

- 25 DOWA THT AMERICA, INC. (アメリカ)
- 26 昆山同和熱処理工業炉有限公司(中国)
- 27 DOWA Thermotech (Thailand) Co., Ltd. (タイ)
- 28 HIGHTEMP FURNACES Ltd. (インド)
- 29 PT. DOWA THERMOTECH INDONESIA (インドネシア)
- 30 PT. DOWA THERMOTECH FURNACES (インドネシア)
- 31 DOWA THERMOTECH MEXICO, S.A. DE C.V. (メキシコ)

本社、その他

- 32 DOWA INTERNATIONAL CORPORATION (アメリカ)
- 33 DOWA INTERNATIONAL CORPORATION サンノゼ事務所(アメリカ)
- 34 同和企業管理(上海)有限公司(中国)
- 35 同和企業管理(上海)有限公司 深圳分公司(中国)
- 36 DOWA HD Europe GmbH (ドイツ)
- 37 DOWA HOLDINGS (THAILAND) CO., LTD. (タイ)

DOWAエコシステム(株)

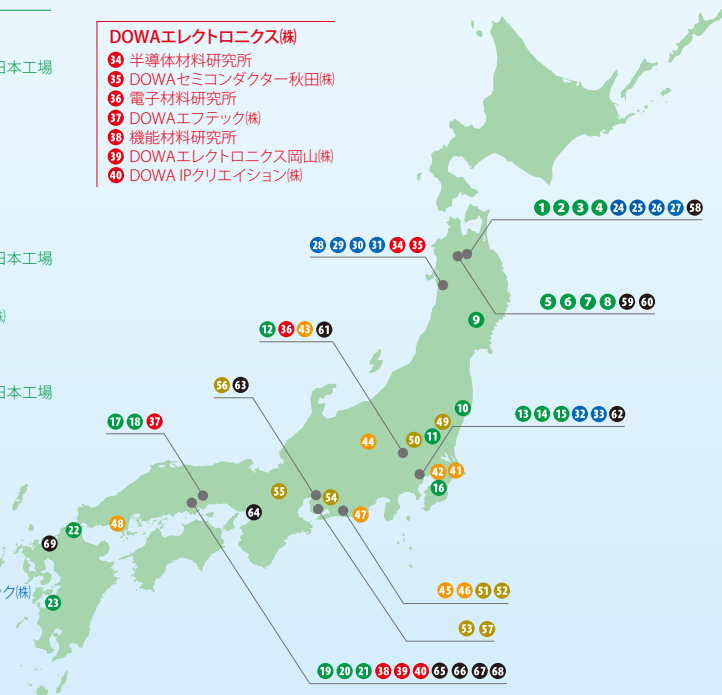
- 1 グリーンフィル小坂(株)
- 2 エコシステムリサイクリング(株) 北日本工場
- 3 エコシステム小坂(株)
- 4 オートリサイクル秋田(株)
- 5 環境技術研究開発センター
- 6 エコシステム秋田(株)
- 7 エコシステム花岡(株)
- 8 (株)エコリサイクル
- 9 DOWA通運(株)
- 10 メルテックいわき(株)
- 11 メルテック(株)
- 12 エコシステムリサイクリング(株) 東日本工場
- 13 エコシステムジャパン(株)
- 14 ジオテクノス(株)
- 15 イー・アンド・イー・ソリューションズ(株)
- 16 エコシステム千葉(株)
- 17 エコシステム山陽(株)
- 18 岡山鉱油(株)
- 19 エコシステムリサイクリング(株) 西日本工場
- 20 エコシステム岡山(株)
- 21 バイオディーゼル岡山(株)
- 22 光和精鉱(株)
- 23 アクトビーリサイクリング(株)

DOWAメタルマイン(株)

- 24 製錬技術研究所
- 25 小坂製錬(株)
- 26 (株)日本ピージーエム
- 27 秋田リサイクル・アンド・ファインパック(株)
- 28 秋田製錬(株)
- 29 秋田ジンクリソリューションズ(株)
- 30 秋田レアメタル(株)
- 31 秋田ジンクリサイクリング(株)
- 32 (株)アシックス
- 33 ジンクエクセル(株)

DOWAエレクトロニクス(株)

- 34 半導体材料研究所
- 35 DOWAセミコンダクター秋田(株)
- 36 電子材料研究所
- 37 DOWAエフテック(株)
- 38 機能材料研究所
- 39 DOWAエレクトロニクス岡山(株)
- 40 DOWA IPクリエイション(株)



DOWAメタルテック(株)

- 41 新日本プラス(株)
- 42 豊栄商事(株)
- 43 DOWAハイテック(株)
- 44 DOWAパワーデバイス(株)
- 45 技術センター
- 46 DOWAメタル(株)
- 47 DOWAメタニクス(株)
- 48 TDパワーマテリアル(株)

DOWAサーモテック(株)

- 49 DOWAサーモエンジニアリング(株) 真岡工場
- 50 DOWAサーモエンジニアリング(株) 太田工場
- 51 DOWAサーモエンジニアリング(株) 浜松工場
- 52 DOWAサーモエンジニアリング(株) 浜松北工場
- 53 DOWAサーモエンジニアリング(株) 中京半田工場
- 54 DOWAサーモエンジニアリング(株) 豊田工場
- 55 DOWAサーモエンジニアリング(株) 滋賀工場
- 56 株式会社
- 57 東熱興産(株)

本社、その他

- 58 DOWAテクノリサーチ(株)
- 59 卯根倉鉱業(株)
- 60 秋田工管(株)
- 61 DOWAテクノロジー(株) 関東テクノセンター
- 62 本社
- 63 DOWAグループ名古屋支店
- 64 DOWAグループ大阪支店
- 65 DOWAテクノロジー(株) 西部テクノセンター
- 66 DOWAテクノエンジニア(株)
- 67 陽和工管(株)
- 68 DOWA興産(株)
- 69 DOWAグループ九州支店

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	2015年度 2016.3.31	2016年度 2017.3.31	比較増減
資産の部			
流動資産	168,662	194,824	26,161
現金及び預金	19,364	15,589	△3,775
受取手形及び売掛金	62,202	80,169	17,967
棚卸資産	69,277	81,801	12,523
その他流動資産	17,817	17,263	△553
固定資産	195,758	209,780	14,021
有形固定資産	110,607	118,553	7,945
無形固定資産	10,296	9,950	△345
投資その他の資産	74,855	81,275	6,420
資産合計	364,420	404,604	40,183

流動資産のポイント

現金及び預金が37億円減少した一方、受取手形及び売掛金が179億円、原材料及び貯蔵品が101億円増加したことなどにより、前連結会計年度末比261億円の増加となりました。

固定資産のポイント

建設仮勘定が34億円減少した一方、機械装置及び運搬具が75億円、投資有価証券が71億円、建物及び構築物が38億円増加した結果、前連結会計年度末比140億円の増加となりました。

総資産のポイント

以上の結果、前連結会計年度末比401億円の資産増加となりました。

(単位:百万円)

科目	2015年度 2016.3.31	2016年度 2017.3.31	比較増減
負債の部			
流動負債	100,646	121,114	20,468
支払手形及び買掛金	28,720	34,268	5,548
短期借入金	32,407	38,956	6,548
コマーシャル・ペーパー	14,000	12,000	△2,000
その他流動負債	25,518	35,889	10,371
固定負債	60,403	55,667	△4,736
社債	10,000	10,000	—
長期借入金	24,727	18,926	△5,801
その他固定負債	25,675	26,740	1,064
負債合計	161,049	176,782	15,732
純資産の部			
株主資本	182,211	202,894	20,682
資本金	36,437	36,437	—
資本剰余金	26,426	26,350	△75
利益剰余金	125,049	145,809	20,760
自己株式	△5,701	△5,703	△2
その他の包括利益累計額	12,709	16,408	3,699
非支配株主持分	8,449	8,518	68
純資産合計	203,370	227,821	24,451
負債純資産合計	364,420	404,604	40,183

負債のポイント

有利子負債が12億円減少した一方、その他流動負債が103億円、支払手形及び買掛金が55億円、未払法人税等が33億円増加したことなどにより、前連結会計年度末比157億円の増加となりました。

純資産のポイント

親会社株主に帰属する当期純利益を261億円計上し、配当金の支払いなどを行った結果、株主資本が206億円増加しました。また、その他の包括利益累計額が36億円増加し、純資産合計では前連結会計年度末と比較し244億円増加しました。この結果、自己資本比率は54.2%となりました。

連結損益計算書

(単位:百万円)

科目	2015年度 2015.4.1~ 2016.3.31	2016年度 2016.4.1~ 2017.3.31	比較増減
売上高	406,598	410,503	3,904
売上原価	337,314	341,177	3,862
売上総利益	69,283	69,325	42
販売費及び一般管理費	34,216	35,335	1,119
営業利益	35,067	33,990	△1,076
営業外収益	3,674	5,512	1,838
営業外費用	3,685	2,999	△686
経常利益	35,056	36,504	1,447
特別利益	2,053	1,867	△186
特別損失	5,287	1,636	△3,650
税金等調整前当期純利益	31,822	36,735	4,912
法人税等	10,099	10,260	161
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	△103	304	408
親会社株主に帰属する当期純利益	21,826	26,169	4,343

損益計算書のポイント

売上高は前年比39億円増の4,105億円、営業利益は同10億円減の339億円、経常利益は同14億円増の365億円、親会社株主に帰属する当期純利益は同43億円増の261億円となりました。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科目	2015年度 2015.4.1~ 2016.3.31	2016年度 2016.4.1~ 2017.3.31	比較増減
営業活動によるキャッシュ・フロー	45,751	29,389	△16,362
投資活動によるキャッシュ・フロー	△23,486	△25,954	△2,468
財務活動によるキャッシュ・フロー	△11,159	△7,155	4,003
現金及び現金同等物に係る換算差額	△248	△54	193
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	10,857	△3,775	△14,632
現金及び現金同等物の期首残高	8,044	18,902	10,857
現金及び現金同等物の期末残高	18,902	15,126	△3,775

営業キャッシュ・フローのポイント

税金等調整前当期純利益367億円や減価償却費の計上157億円、仕入債務の増加57億円などがあった一方、売上債権の増加182億円や棚卸資産の増加127億円に加え、法人税等の支払い59億円などにより、293億円の収入となりました。

投資キャッシュ・フローのポイント

環境・リサイクル部門や製錬部門などを中心とした設備投資などにより、259億円の支出となりました。

財務キャッシュ・フローのポイント

有利子負債の返済9億円や配当金の支払い55億円などにより、71億円の支出となりました。

取締役・監査役



代表取締役社長

山田 政雄



取締役

光根 裕



取締役

中塩 弘



取締役

松下 克治



取締役

加賀谷 進



社外取締役

細田 衛士



社外取締役

小泉 淑子



監査役(常勤)

雪竹 克也



社外監査役(常勤)

小林 英文



社外監査役

武田 仁



社外監査役

中曾根 一夫

執行役員



上席執行役員
DOWAサーモテック(株)
代表取締役社長

住田 敏郎



上席執行役員
DOWAエレクトロニクス(株)
代表取締役社長

大塚 晃



執行役員
DOWAエコシステム(株)
代表取締役社長

飛田 実



執行役員
DOWAメタルマイン(株)
代表取締役社長

関口 明



執行役員
DOWAメタルテック(株)
代表取締役社長

菅原 章



執行役員
DOWAテクノロジー(株)
代表取締役社長

山田 潔

会社概要・株式の状況 (2017年3月31日現在)

会社概要

創業	1884年9月18日	主な事業内容
設立	1937年3月11日	環境・リサイクル事業、
資本金	364億37百万円	製錬事業、電子材料事業、
DOWAグループの社員数	約6,200人	金属加工事業、
		熱処理事業

株式の状況

会社が発行する株式の総数	1,000,000,000株
発行済み株式の総数	309,946,031株
株主数	11,026名

大株主

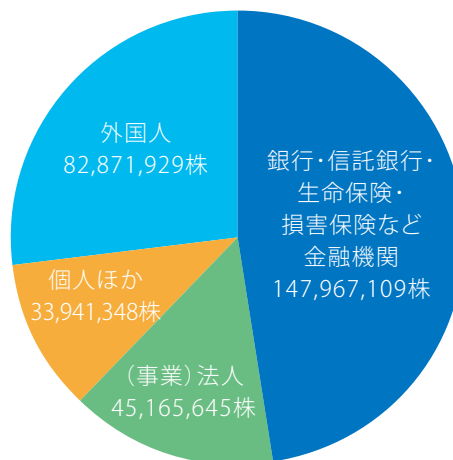
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9.47%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	8.95%
藤田観光株式会社	4.79%
全国共済農業協同組合連合会	3.06%
株式会社みずほ銀行	2.46%
J.P. MORGAN BANK LUXEMBOURG S.A. 380578	2.17%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	2.06%
JFEスチール株式会社	1.87%
資産管理サービス信託銀行株式会社(投信受入担保口)	1.57%
あいおいニッセイ同和損害保険株式会社	1.54%

※当社は自己株式9,433千株を保有しています。
持分比率については、自己株式を控除した発行済株式数より算出しております。

主要子会社

DOWAエコシステム(株)	環境・リサイクル事業会社
DOWAメタルマイン(株)	製錬事業会社
DOWAエレクトロニクス(株)	電子材料事業会社
DOWAメタルテック(株)	金属加工事業会社
DOWAサーモテック(株)	熱処理事業会社

所有者別株式分布状況



株価および出来高の推移



株主メモ

決 算 期	3月31日
定 時 株 主 総 会	6月
基 準 日	3月31日 その他必要あるときは、あらかじめ公告した日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
法 定 公 告 掲 載 新 聞	日本経済新聞(東京)
株 主 名 簿 管 理 人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
(郵 便 物 送 付 先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(電 話 照 会 先)	電話番号 0120-782-031(フリーダイヤル)
(ホームページアドレス)	http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html

株式併合と単元株式数の変更に関するお知らせ

第114期定時株主総会において、2017年10月1日をもって当社普通株式5株を1株の割合で併合することおよび単元株式数を1,000株から100株にすることについてご承認いただきました。

この件に関するお問合せは、お取引の証券会社または株主名簿管理人である「三井住友信託銀行株式会社 証券代行部」までご連絡ください。

ご連絡先

三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
電話番号:0120-782-031(フリーダイヤル)

DOWAホールディングス株式会社

〒101-0021

東京都千代田区外神田四丁目14番1号 秋葉原UDX22階

電話番号 03-6847-1100

ホームページアドレス <http://www.dowa.co.jp>

表紙写真: (株)日本ビージーエムの社員

